

二字漢語（漢日語）と漢越語との対照 —『漢字語彙集 ベトナム語版』をもとに—

山 崎 恵

0. はじめに

全国的にベトナム人日本語学習者が急増している¹が、兵庫県でも姫路市、神戸市の日本語学校では、ベトナム人留学生が増加の一途をたどっている。また、ベトナム人技能実習生も増えている。特に姫路市には、以前インドシナ難民姫路定住促進センター²があったため、今もベトナム国籍の外国人住民が多いことが特徴である。本学にはベトナム系（以下「越系」）2世の学生が何人かいるが、その中の一人は父親がインドシナ難民として姫路定住促進センターで日本語教育を受けていた。そこで漢字教材として使っていたのが姫路定住促進センター編（1984）『漢字語彙集 ベトナム語版』である。その学生は子供の頃は母語としてベトナム語を話していたのに、小・中学校に通うようになってからはベトナム語を忘れてしまったという。しかし、父親が使っていた教科書を見て、漢越語（＝ベトナム漢語）を知り、継承語としてのベトナム語を強く意識し始め、卒論にまとめた³。

現在、ベトナム語はローマ字表記なので、ベトナムがもともと漢字圏であったことや漢越語のことを知らないベトナム人が多い。彼/彼女らは日本語の漢字と発音に対する苦手意識が強いようである。

上記のようなことがきっかけとなり、共同研究で漢越語を活用した教材開発に取り組み始めた⁴。日本に定住する越系2世・3世にとっては、日本語が第二言語（第二の母語）であり、ベトナム語は継承語である。一方、日本に留学するベトナム人にとっては、ベトナム語が母語であり、日本語は（第一 or 第二）外国語である。その両者にとって有益な音声認識漢字学習アプリの開発が最終目標であるが、本稿の目的は基データとなった『漢字語彙集 ベトナム語版』の二字漢語（漢日語）と漢越語とを対照しつつ、先行研究をもとに漢字音から類推しやすい漢字を含む二字漢語について、同形で意味が同じか似ている語（同形同義/類義語）、反対に意味が異なる語（同形異義語）等、先行研究から得られる知見を整理することである。

1. ベトナム語について

まずベトナム語について、川口健一（1998）⁵、佐藤章太（2015）⁶ をもとに、概観する。ベトナム語はベトナム社会主義共和国の公用語であるが、狭義ではベトナム国内最大民族キン（京：Kinh）族の話す言葉を指す。言語系統はオーストロアジア語族のモン・クメール諸語、ベト・ムオン語群に属する。類型論上は語順により意味が定まる孤立語で、統語的には主語・動詞・目的語の順に並ぶSVO型言語、形容詞や名詞は後置修飾型である。また、音韻的には単音節言語で、声調が音節にかぶさる声調言語でもある。ただし、現在では6声調を明確に区別するのはハノイを中心とした北部方言のみで、中部と南部では一部に声調の混同が見られ、6声調を明確に区別していないようである。ベトナム語の方言差は語彙、音声の両面で認められるが、文法面では相違はないとのことである。公用表記はクオック・ゲー（「国語」という漢字語）と呼ばれる、29種のアルファベットと5つの声調記号を組み合わせた表音文字を使用している。

1.1 漢字からローマ字表記へ

現代ベトナム語は語彙の約7割⁷が漢語由来と言われており、概念語や専門用語に多いという。漢字は1世紀にベトナムを侵略した後漢王朝によってもたらされ、唐王朝まで続く中国王朝化の時代に発展を遂げ、詩文や仏教著作・翻訳が現代に残されている。11世紀にベトナムの李朝が中国から独立して以来、ベトナム王朝期においては、政治・法律・教育・官吏登用・文化のあらゆる面で、漢字・漢文のみがベトナムの正式な表記法となり、ベトナム文化やベトナム文学の発展に寄与した。13世紀の陳朝では、ベトナム語を表すために、漢字の構造を用いたチュノム（字喃）が生み出された。17世紀になると、キリスト教宣教師が布教のためのベトナム語ローマ字表記を開発した。19世紀後半にベトナムがフランスの植民地になると、漢字・チュノムの廃絶を目指すと同時に、ベトナム語ローマ字表記法を推進した。20世紀前半にはクオック・ゲーという名とともに、漢字・チュノムを超える表記法の地位が確立した。第二次世界大戦後はクオック・ゲーによる表記法のみが、ベトナムにおける正式な表記法となり、現在に至るまで使用され続けている。

1.2 漢越語に対する教育

現在のベトナムの初等・中等教育において、漢字の字体教育は全く行われていないが、中等教育においては漢語由来語彙を教育する方法が以下のとおり二つ存在しているという。

二字漢語（漢日語）と漢越語との対照

(1)漢文古典教材：漢字のベトナム漢字音をクオック・グーで記した「翻音」と現代ベトナム語で意味を訳した「訳義」で表記されており、漢語由来語彙を一つ一つ解説した注釈が付されている。

(2)教科書巻末に収録されている漢字要素表：漢字要素を説明しているだけで、漢字の字形は印字されていない。漢字要素の項目数は、6～8年（日本の小学6年～中学2年に相当）の各学年それぞれ50個、9年（日本の中学3年に相当）が70個の計220個。

ベトナム国内で生活する上で、漢字学習の必要性は極めて低く、漢字学習者は漢字チュノム学の学生や日本語・中国語学習者に限定されているとのことである*。

2. 先行研究について

2.1 佐藤章太 (2015)

佐藤 (2015) によると、ベトナム語母語話者が漢越語と純ベトナム語（ベトナム固有語）をどのように区別するのか調査した結果、使用頻度が高い純ベトナム語が含まれている複合語、ベトナム語の統語構造でも理解できる漢越語、ベトナム語の統語構造に合わせて配列が入れ替わった漢越語については、ベトナム語母語話者は純ベトナム語と判断する傾向があるという。また、日本語・中国語学習者は、対応する漢字語が日本語・中国語でも同じ意味で用いられている場合は、漢越語だと判断しやすく、意味内容が日本語・中国語とは異なる意味的な越化漢語の場合は、純ベトナム語だと判断しやすいと述べている。

2.2 石原嘉人 (2014)

石原 (2014) では、日本の字音語と異なる漢越語の特徴として、固有語と漢越語の合成語が珍しくはなく、漢越語の造語力が現在も保たれていて、様々な分野で新しい漢越語が作られていることを指摘する。また、漢越語の内部における修飾関係をみると、漢語の語順に従った前置修飾と固有語の後置修飾が混在しているという特徴があるという。近代化のために翻訳された日本語に由来する中国語（和製漢語）の語彙の多くは漢越語としても使用されており、このような漢字語彙リストや教材を作成すれば学習効率が大幅に向上することが見込まれ、学習者の負担を軽減するだけでなく、漢字学習の意義についても再確認できるのではないかと指摘する。さらに漢字圏相互で同形語がどのように分布しているかを概観することは、東アジアの近代化を巡る各国間の交流について理解することにつながると述べる。また、漢字圏の学生には母語の韻尾との

対応関係さえ知っていれば長音や撥音の有無を確認できるという利点があり、漢字語彙の促音化については、入声音の存在を意識させることで効率的な指導が可能になるという。このような音韻上の対応関係が現代語にも引き継がれている事実を知ること、日本語学習が容易になるだけでなく、東アジアの交流史と漢字の関わりに関心を持ち、漢字語彙習得への動機づけにつながることを期待でき、ベトナム話者に対する漢字語彙の指導を効果的に進めることができると結論づけている。

2.3 松田真希子 (2012)

松田 (2012) では、漢越音と漢字の一致がどの程度日本語母語話者とベトナム語母語話者間で習得を容易にするかを調査している。その結果、(1)当該言語の学習歴がない場合は日本語母語話者の方が類推力が高いことから、書字としての漢字の知識の有無が対象言語の習得に影響を与える、(2)既習歴のあるベトナム語母語話者は、非常に高い成績であったことから、ある程度日本語と漢字の学習が進んだ段階で漢越音との対応の知識が得られれば日本語の漢語の類推力や語彙習得は加速する可能性があるとして述べる。そこで漢越音の一致とずれの情報を盛り込み、知識を最大限活用できる教育方法の検討や学習リソースの開発は意味があるとする。日本語学習者には漢字の知識がある程度備わってくる初級後半から、一対一の対応がある語を覚え、漢字の組み合わせから母語訳を類推させれば、効果的な活用が可能になるのではないかという。

2.4 松田真希子、タン・ティ・キム・チュエン、ゴ・ミン・トゥイ、金村久美、中平勝子、三上喜貴 (2008)

松田ほか (2008) では、ベトナム人学習者が日本語を学ぶ際、漢越語の知識がどの程度日本語学習に役立つかを明らかにすることを目的に、日本語能力試験出題語彙全約8,000語に占める二字漢語約4,000語における漢越語との意味の一致状況を調査している。その結果、(1)二字漢語においては全体の5割が一致語や類似語である、(2)1級と2級の二字漢語については日越漢語の一致や類似が6割近くに達し、さらに語彙全体に占める二字漢語の比率も1級56%、2級46%と高くなっている、(3)4級語彙については日越の漢語の一致度は多くとも2割以下で、3級も同様に一致度は低い、(4)和製漢語と漢越語の一致率は6割以上であり、学術専門用語であれば更に一致する可能性がある、ということを明らかにしている。

2.5 中川康弘・小林学 (2008)

中川・小林 (2008) では、ベトナム人日本語学習者の漢越語知識と日本語の漢字語彙習得の関係について実証的な調査を試みている。その結果、習得の難

二字漢語（漢日語）と漢越語との対照

易の要因が、日本語の漢字語彙と漢越語の意味の重なりや違いからくる転移以外に、習得方法、教育方法によるところも大きいことがわかったという。このことから、漢字語彙指導にあたっては、日越同形漢字語彙を初級段階から積極的に扱う、漢越語との違いを意識的に明示するなど、ベトナム母語話者に特化した教え方を確立することの重要性を提案している。

以上の先行研究の知見から、ベトナム人日本語学習者のための漢字教材には次のような情報が含まれると指導・（自律）学習上、有効であると考ええる。

漢字音から類推しやすい漢字を含む二字漢語について、

- 1) 漢日語・漢越語が同形同義の場合：その意味と日越用例文
- 2) 漢日語・漢越語が同形異義の場合：
 - 2-1 漢日語にはあるが、漢越語にはない意味：その意味と日本語用例文
 - 2-2 漢日語にはないが、漢越語にはある意味：その意味とベトナム語用例文
- 3) 漢日語・漢越語に意味・用法のずれがある（同形類義）場合：
 - 3-1 漢日語にはあるが、漢越語にはない意味・用法：その意味・用法と日本語用例文
 - 3-2 漢日語にはないが、漢越語にはある意味・用法：その意味・用法とベトナム語用例文
- 4) 和製漢語のリスト：その意味・用法と日越用例文
- 5) 漢日語に対応するが、現代ベトナムでは使用されない漢越語リスト：漢越語に代わる現代ベトナム語（固有語/漢越語を含む複合語）

3. データについて

3.1 姫路定住促進センター編（1984）『漢字語彙集 ベトナム語版』

これは、ベトナム人が日本語の漢字と漢語を学習するための教材として開発され、1984年に出版されている。当時の常用漢字1,945字のすべてに対して、ベトナム漢字音とベトナム語訳を付したものである。各漢字の音読みにはベトナム漢字音、訓読みにはベトナム語訳を対照させ、漢語には、それに相当する漢越語を対照させてある。この語彙集から、約4,000語弱の二字漢語（漢日語）と漢越語のペアを抽出し、データベース化した。

なお、姫路定住促進センターが設置されていた1979年12月から1996年3月までの間に、この『漢字語彙集 ベトナム語版』のほかに『よみと発音の練習』（1986年）、『漢字のれんしゅう』（1992年）が作成されている。『よみと発音

の練習』のはしがきには監修者、吉田弥寿夫氏が次のように書いている。

日本語学習を始める外国人が、文型練習に入るまでに、まず、しなければならないことは、文字と発音を結びつけることである。このテキストは、いままで文字は文字の時間、発音は発音の時間に、バラバラになされていたものを、できるだけ連携をもたせるために編集した。(中略)「発音練習Ⅰ」では、内容を理解しながら発声させるようにベトナム語訳をつけた。「発音練習Ⅱ」では、ベトナム人が誤りやすい発音を、正しく矯正できるように、聞き、読み、書きの三点から工夫をこらしてある。また、初心者、中級者、中国系学習者のことを考え、キメ細かく、注意深く編集した。

この教材には独習用テープ教材がついており、「発音練習Ⅱ」の工夫とは、次のようなことである。学習者にとって発音しにくい音、聞きとりにくい音を含むよく似た言葉を、二つずつ集めており、例えば初心者用の第一課は「さ、す、そ/しゃ、しゅ、しょ」の練習で、左側の例は「さ、す、そ」、右側の例は「しゃ、しゅ、しょ」の入った、よく似たことばを「1. さかなーしゃかな 2. かさーかしゃ 3. さいんーしゃいん 4. かいさーかいしゃ」のように二つずつ並べて、テープで左側の語を2回、それに続いて右側の語を2回順番に吹き込んである。指導の際、音の違いに気を付けるように聞かせ、後について練習するようになっている。既習者用になると、例えば第一課の「さ、す、そ/しゃ、しゅ、しょ」の練習では、「1. さかなーしゃかな 2. かさーかしゃ 3. しゃいんーさいん 4. かいしゃーかいさ」のように左側に正しい発音で書いた言葉を、右側に間違った発音で書いた言葉(意味のない言葉)が並べてあり、テープで最初の発音をよく聞いて、後について練習し、後のように間違った発音になっていないか、本人の気づきを促すような工夫がなされている。このように30年前の当時から日本語教育の現場(姫路定住促進センター)では、ベトナム人日本語学習者のために文字と発音を結び付けるための効果的な指導法が模索されていたことが窺える。

また、1992年に発行された『漢字のれんしゅう』¹⁰には漢字による発展的語彙学習として、ベトナム語の音に関係の深い漢字語を付記してある。漢字語については次のように書かれている。

中国語、日本語、朝鮮語、ベトナム語、などの中にあって漢字に由来する「単語」をすべて「漢字語」と呼ぶことにする。

二字漢語（漢日語）と漢越語との対照

ベトナム語では、現在、漢字は使わないけれども漢字音は保存されていて、このベトナム語の漢字音と日本語の漢字音にはよく似たものが多い。

例えば、悪 ác アク 意 ý イ など。

一方、あまり似ていないものもすくなくあるが、双方の対応関係を理解すればどの音がどの音に相当し、それがどの漢字を指すかが簡単にわかるようになる。

つぎに、話を「単語」レベルに移すと、ベトナム語の漢字語である「漢越語（カンエツゴ）」には日本語の漢字語（いわゆる「国語」で“漢字熟語”とか“漢語”とかいうもの）と共通するものが数多くある。

例えば、ác ý 惡意 ý kièn 意見 など。

その反面、同じ漢字(音)を組み合わせていても、意味内容が双方で少し違っているものもある。

例えば、“下水” hạ thủy は「(船を)進水させる」ことなど。

このほか、配列が逆になるものもある。

例えば、“善良”は lương thiện (良善) “民主主義”は chủ nghĩa dân chủ (主義民主) となるなど。つぎの「日越共通漢字語表」には両語に共通する単語の中からその一部を例としてあげた。

とあり、次のような漢字語が挙げられている。

[表 1] 日越共通漢字語

愛情 ái tình	安心 an tâm	安全 an toàn	營業 doanh nghiệp	音樂 âm nhạc	加工 giã công
開会 khai hội	会話 hội thoại	外国 ngoại quốc	漢字 Hán tự	感謝 cảm tạ	關係 quan hệ
完全 hoàn toàn	機械 cơ giới	規則 quy tắc	希望 hi vọng	技術 kĩ thuật	教育 giáo dục
漁業 ngư nghiệp	空氣 không khí	計算 kê toán	經濟 kinh thũ	結果 kết quả	結婚 kết hôn
決定 quyết định	研究 nghiên cứu	權利 quyền lợi	原因 nguyên nhân	現在 hiện tại	
公園 công viên	交通 giao thông	行動 hành động	幸福 hạnh phúc	國際 quốc tế	
国民 quốc dân	困難 khó khăn	雜誌 tạp chí	散步 tản bộ	試験 thí nghiệm	市長 thị trường
指導 chỉ đạo	資本 tư bản	使用 sử dụng	時刻表 thời khắc biểu	自由 tự do	失敗 thất bại
質問 chất vấn	社会 xã hội	主人 chủ nhân	首都 thủ đô	習慣 tập quán	就職 tị chức

重要 trọng yêu 出発 xuất phát 準備 chuẩn bị 正直 chính trực 少女 thiếu nữ
 小説 tiểu thuyết 少年 thiếu niên 商売 thương mại 将来 tương lai 職業 chức nghiệp
 親切 thân thiết 進歩 tiến bộ 数量 số lượng 世界 thế giới 生活 sinh hoạt
 請求 thỉnh cầu 清潔 thanh khiết 成功 thành công 政治 chính trị 正式 chính thức
 性質 tính chất 製造 chế tạo 青年 thanh niên 生命 sinh mệnh 整理 chỉnh lý
 責任 trách nhiệm 説明 thuyết minh 接続 tiếp tục 選挙 tuyển cử 戦争 chiến tranh
 祖国 tổ quốc 祖先 tổ tiên 祖父 tổ phụ 想像 tưởng tượng 尊敬 tôn kính 注意 chú ý
 通訳 thông dịch 停止 đình chỉ 電報 điện báo 電話 điện thoại 努力 nỗ lực 動作 động tác
 動物 động vật 特別 đặc biệt 内容 nội dung 農業 nông nghiệp 反省 phản tỉnh
 非常 phi thường 秘密 mật mật 美人 mỹ nhân 必要 tất yếu 病院 bệnh viện 不幸 bất hạnh
 不便 bất tiện 無事 vô sự 複雑 phức tạp 便利 tiện lợi 法律 pháp luật 未来 vị lai
 無効 vô hiệu 問題 vấn đề 理解 lý giải 理由 lý do 利用 lợi dụng 練習 luyện tập
 連絡 liên lạc 労働 lao động

[表1]の漢語は全部で119語あるが、この『漢字のれんしゅう』が発行されたのは1992年であり、それから四半世紀が経っている。このリストにある漢語が現在のベトナム語でも一般に使用されているか検証する必要があるが、それは今後の課題とする。

3.2 教育漢字・常用漢字の組み合わせとその数

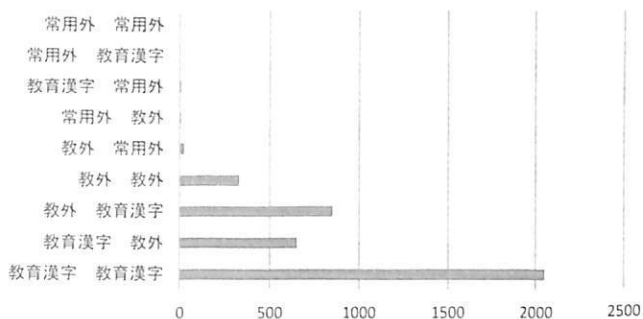
先述したように姫路定住促進センター編（1984）『漢字語彙集 ベトナム語版』で取り上げられた漢字は当時の常用漢字1,945字であるが、日本語学習者にとって必要なのは、教育漢字1,006字を含む、現常用漢字2,136字であると考えている。現在、データベース化した約4,000語弱の二字漢語について、教育漢字、常用漢字の組み合わせとその数を調べてグラフにしたのが [図1]である。

二字からなる漢語の構成字1と構成字2を見ると、小学校で学ぶ教育漢字と教育漢字の組み合わせが一番多い。約4,000語中、およそ半数に当たる2,051語がこの組み合わせだということがわかる。次に教育漢字とその他の常用漢字の組み合わせを見ると、構成字1が教育漢字であるもの(655語)、構成字2が教育漢字であるもの(853語)を合わせると、1,508語になる。さらに教育漢字以外の常用漢字のみの組み合わせは329語である。つまり、圧倒的に多いのが、

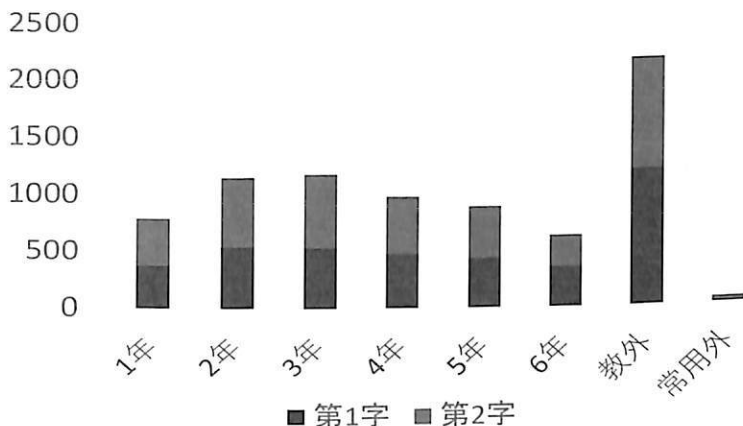
二字漢語（漢日語）と漢越語との対照

小学校で学ぶレベルの漢字を使った二字漢語ということになる。

教育漢字/常用漢字/常用外の組み合わせ



〔図1〕 教育漢字・常用漢字の組み合わせとその数



〔図2〕 教育漢字の配当学年別割合

二字漢語の構成字1と構成字2について、教育漢字の場合はさらに詳しく小学何年配当かを見ると、小学校2年配当、3年配当、4年配当の漢字が上位3位を占めている。データベースに収録した漢日語/漢越語は、日本では小学校の低・中学年で学ぶ漢字ばかりだということがわかる（〔図2〕参照）。

4. データベースに見る二字漢語（漢日語）と漢越語の対照

先行研究で提案されていたように、ベトナム人日本語学習者が抵抗なく、興味を持って漢字学習が進められるように、以下のような点に着目させると効果的であると考えられる。

4.1 字音の類似

データベース化した漢越語には、日本語の漢語（漢日語）の読み（発音）とよく似ているものがある。

[表2] 字音の類似例

漢字	日本語音	ベトナム語音	例
温	オン	ôn	温室ôn thất、温泉ôn tuyền、温暖ôn noãn、温利ôn hòa
果	カ	quả	果敢 quả cảm、果実 quả thực、果汁 quả trái
寡			寡婦 quả phụ、寡黙 quả mặc
回	カイ	hồi	回顧 hồi cô、回答 hồi đáp、回避 hồi tị、回復 hồi phục
壊		hoại	壊滅 hoại diệt
快		khoái	快晴 khoái tình、快速 khoái tốc、快樂 khoái lạc

「回、壊、快」は日本語の音読みでは「カイ」だが、漢越語では、「回」の時は「hồi」、「壊」の時には「hoại」、「快」の時にはそれに似た「khoái」となることがわかる。ベトナム人日本語学習者は、日本語の漢字音とベトナム語音には音韻上の対応が見られることに気づき、難しい日本語の漢語にもベトナム語との対照から一定のルールがあることに興味を持つようになることが期待できる。

4.2 二字漢語（漢日語）と漢越語の意味が同じ場合

石原（2014）によると、「(日越)同形語の中には歴史的な経緯により語義が同一であるものが多く、また音韻的な対応関係が用意に推測できることから、日本語学習を効果的に行える」(p.27) とある。データベースに収めている二字漢語と漢越語の中からレベル別、目的別に取り出して、リスト化したものを教材として使用することは効果的であろう。

二字漢語（漢日語）と漢越語との対照

〔表 3〕 同形同義の例

漢日語	漢越語	日本語用例	日本語用例
運動 (ウンドウ)	vận động	毎日運動したほうがいいです。	彼は選挙運動に熱心だ。
豊富 (ホウフ)	phong phú	彼は教師の経験が豊富だ。	海産物が豊富にとれる。
利用 (リョウ)	lợi dụng	通勤にバスの利用者が多い。	特権を利用して成功した。
世界 (セカイ)	thế giới	世界でどこに一番行きたいですか	スポーツの世界は厳しい。

4.3 二字漢語（漢日語）と漢越語の意味が異なる場合

形、つまり基になる漢字の組み合わせは同じでも、意味の違う語もある。例えば、「入口」、「出口」は、日本語では訓読みで使用される漢語であるが、漢越語の場合、漢字のベトナム漢字音をクオック・グーで記すと「nhập khẩu」、「xuất khẩu」で、意味は「輸入する」、「輸出する」となり、中国語の意味と類似している。

〔表 4〕 同形異義の例

漢日語	意味	漢越語	意味
料理 (リョウリ)	食べ物を作る	liệu lí	物事を処理する ¹¹
勉強 (ベンキョウ)	学問などを学ぶ	miễn cường	我慢してやる
結束 (ケツク)	団結する	kết thúc	終了する
迷惑 (メイワク)	不利益を受けたり、不快を感じる	mê hoặc	魅了する
算数 (サンズウ)	小学校の教科の一つ	toán số	運勢判断
工場 (コウジョウ)	機械などを使ってモノを生産するところ	công trường	工事現場、作業所

4.4 配列が日本語の漢語と逆の場合

日本語の漢語と漢越語を比べると、その配列が逆になる場合がある。これは日本語と異なり、ベトナム語の統語構造では形容詞や名詞は後置修飾型で、被修飾語・修飾語の順に続くのが通常だからである。佐藤（2015）によると、「ベトナム語の統語的語順と一致しない漢越語は、ベトナム語母語話者にとって理解しづらく、純ベトナム語による置き換えの対象になったと考えられる。」

(p.258) とあり、指導の際には、このような語例を「表5」のようにリストにして示す方が効果的であろう。

〔表5〕 漢語と漢越語の配列が逆の場合

漢日語	読み	漢越語
電車	デンシャ	xa điện (車電)
制限	セイゲン	hạn chế (限制)
限界	ゲンカイ	giới hạn (界限)
紹介	ショウカイ	giới thiệu (紹介)
拳銃	ケンジュウ	súng lục (銃拳)

4.5 漢越語と固有語との合成

石原(2014)によると、ベトナム固有語と漢越語との合成語は珍しくないという。一方で、漢越語の造語力は現在も保たれていて、さまざまな分野で新しい漢越語が作られているようである。例えば、「機械」を意味する固有語「máy」と漢越語「vi (微)」「tính (性)」との合成語は「máy vi tính」で、コンピュータを意味する。ちなみに、現在では、「com-piu-tơ」の方が一般的なようで、この点は、日本語の事情とも共通している。

エアコンは、日本語でも空調と言ったりエアコンと言ったりするが、ベトナムでも「máy điều hòa (=máy (機械) + điều hòa (調和))」という合成語と「máy lạnh」という固有語があり、ベトナム政府は後者を推奨しているとのことである。

5. まとめと今後の課題

以上、データベースの基データとなった難民事業本部姫路定住促進センターが作成・発行した副教材『漢字語彙集 ベトナム語版』及び『よみと発音の練習』、『漢字のれんしゅう』を改めて読み直し、その編集方針について振りかえった。当時から日本語教育現場では学習者のニーズに応じたより効果的な指導法を模索し、教材開発がなされていたことを再発見できた。それから四半世紀以上経った今、急激な社会情勢の変化と ICT 技術の進展には目を見張るものが

二字漢語（漢日語）と漢越語との対照

ある。日本語教育の現場もその例外ではない。現在、取り組んでいる共同研究では、最新の ICT 技術を駆使し、新たな学習スタイルに対応した教育媒体であるスマホアプリを開発することで、日本語教育に貢献できればと願っている。

そこで、基データから二字漢語と漢越語とを対照しつつ、先行研究をもとに漢字音から類推しやすい漢字を含む二字漢語と漢越語について、どのような情報をデータベースに盛り込むと有効であるか、意味が同じ場合、反対に意味が異なる場合、等について例を挙げながら整理を試みた。

しかしながら、基データの『漢字語彙集 ベトナム語版』は、1973年から1975年に出版された辞典類を参考¹² にしており、データが古くなり、現在のベトナムでは使用されない語が含まれている可能性がある。3.1で述べたように、日越共通漢字語 [表1] についても、一般に使用されている語かどうか検証し、歴史的漢越語と現代ベトナム語との乖離についてデータベースに反映させること、漢越語の理解度や使用頻度は年齢や地域等によっても一律ではないようなので、データベースをさらに精査することが今後の課題である。

[注]

- 1 2016年の文化庁の発表によると、日本国内の日本語学習者数では、中国に次いで二位の44,797人で、前年の1.3倍の増加になっている。
- 2 姫路市仁豊野に1979年12月から1996年3月まで設置されており、そこで日本語教育、社会生活適応指導、職業の斡旋・紹介等が行われていた。難民の減少により、2,640名を受け入れてきた姫路定住促進センターは業務を終了、閉所した。
- 3 トラン (2017) 「ベトナム語母語話者の漢越語の意識と日本語教育」
- 4 2017年8月4日～6日に早稲田大学で開催された CASTEL/J (日本語教育支援システム研究会) で「漢越語を生かした発音矯正・語彙習得のためのスマホアプリ開発に向けた日越コーパスの構築」というテーマで口頭発表をした。
- 5 川口 (1998) pp.286-307
- 6 佐藤 (2015) pp.255-257
- 7 佐藤 (2015) p.256. 石原 (2014) では「一般に漢越語はベトナム語の総語彙数の6割を占めると言われるが、その中には古語に類するものもあるし、文語としてしか用いられないものも少なくない」(p.28) とある。
- 8 佐藤 (2015) pp.256-257
- 9 1995年1月17日の阪神・淡路大震災の時には、神戸の定住難民が姫路定住

促進センターに一時避難していたこともあり、1996年7月、本学元教授古藤友子氏が、日本語教育を学び、将来日本語教師を目指す学生たちに声をかけ、姫路に在住するインドシナ難民（特にベトナム人）のための日本語学習支援活動を開始したことが、姫路獨協大学日本語教育ボランティアグループの始まりである。1997年5月～2002年3月までは(財)アジア福祉教育財団難民事業本部の助成を得て、定住促進センターで開発された辞書・教材等を寄贈してもらっており、それらの教材も使用していた。筆者は古藤氏のあとを引き継いで、1999年4月～2015年3月まで学生ボランティア主体の地域日本語教室を運営していた。

- 10 はしがきで吉田弥寿夫氏は「センターの日本語教育は、わずか三か月であるので、オーラルを中心にしてきた。すると、自然とむつかしい漢字表記をさげ、かながきがおおくなる、しかし、社会へ出ているいろいろの免許証を取得するためには、漢字語を学習しなければならないし、中国語からの借用語をおおくもつベトナム人には、漢字学習はかえって日本語の理解を深めることになる。」(p.1)と記しており、ベトナム人日本語学習者には漢越語に着目した指導が有効であると考えていることが分かる。
- 11 料理は中国語でも「処理する、整理する」という意味になる。藤井(1986)によると同形異義語は朝鮮語との間にも見られ、概して言えば、日朝の漢語は、他の中国語、ベトナム語に比べると共通して用いられるものが多いという(p.45)。
- 12 参考書は、“Việt Hán Từ điển Tỏi Tân 最新越漢辞典”黄明春編、新華書局、サイゴン、1973年、『越南漢字音の研究』三根谷徹著、(財)東洋文庫、東京、1972年、“Từ điển Anh Việt” Viện ngôn ngữ học 篇、Nhà Xuất bản khoa học xã hội、ハノイ、1975年。

[参考文献]

- 石原嘉人(2014)「ベトナム語話者に対する漢字語彙の指導について」琉球大学留学生センター紀要=Bulletin of International Student Center University of the Ryukyus (1)、pp.27-39
- 川口健一(1998)「ベトナム語」東京外国語大学語学研究所(編)『世界の言語ガイドブック2』三省堂、pp.286-307
- クロス尚美・山崎恵(2017)「姫路地域に暮らす外国人のための日本語教材開発を目指した基礎研究」『姫路獨協大学外国語学部紀要』30、pp.97-108
- クロス尚美・山崎恵・ディン=ティ=トゥ=チャン・トラン=バン=タン

二字漢語（漢日語）と漢越語との対照

- (2017)「漢越語を生かした発音矯正・語彙習得のためのスマホアプリ開発に向けた日越音声コーパスの構築」CASTEL/J2017IN WASEDA 予稿集、pp.224-227
- (財)アジア福祉教育財団難民事業本部編 (2000)『インドシナ難民に対する日本語教育20年の軌跡』(財)アジア福祉教育財団難民事業本部
- 佐藤章太 (2015)「ベトナム語母語話者における漢語由来語彙と固有語彙の区別」『東京大学言語学論集』36、pp.255-270
- トラン＝バン＝タン (2017)「ベトナム語母語話者の漢越語の意識と日本語教育」姫路獨協大学外国語学部外国語学科2016年度卒業論文（未公刊）
- 中川康弘・小林学 (2008)「ベトナム人日本語学習者の漢越語知識と漢字語彙習得についての一考察：現地における正誤判断テストとインタビュー調査から」『桜美林言語教育論叢』4、pp.75-91
- 姫路定住促進センター編 (1984)『漢字語彙集 ベトナム語版』難民事業本部
- 藤井友子 (1986)『すぐに役立つ!!日中朝ベトナム・共通語彙408』朝日出版社
- 松田真希子 (2012)「日本語と意味的な対応のある漢越語の類推力の検証－漢字教育における漢越語知識の有効な活用法に関する一考察－」VNU Journal of Science, Foreign languages 28、金沢大学、pp.233-241
- 松田真希子 (2016)『ベトナム語母語話者のための日本語教育：ベトナム人の日本語学習における困難点改善のための提案』春風社
- 松田真希子・タン＝ティ＝キム＝テュエン・ゴ＝ミン＝トゥイ・金村久美・中平勝子・三上喜貴 (2008)「ベトナム語母語話者にとって漢越語知識は日本語学習にどの程度有利に働くか－日越漢字語の一致度に基づく分析－」『世界の日本語教育』18、国際交流基金、pp.21-33
- 吉田弥寿夫監修 (1986)『よみと発音の練習』アジア福祉教育財団難民事業本部姫路定住促進センター
- 吉田弥寿夫監修 (1992)『漢字のれんしゅう』アジア福祉教育財団難民事業本部姫路定住促進センター

A Comparative Study of Two-letter-Kango (Sino-Japanese Words) and Kanetsugo (Sino-Vietnamese Words) -Based on “Kanji-Goi-Shu Vietnamese Version”-

Megumi YAMASAKI

The author is currently undertaking joint research on developing Kanji learning materials utilising Kanetsu-go for Vietnamese learners of Japanese. Kanetsugo means the Vietnamese vocabulary that is of Chinese origin. Vietnam was, like Japan and countries on the Korean peninsula, originally a country that was heavily influenced by Chinese culture, and used Chinese characters. Even now, in formal writing such as newspaper editorials, Kanetsugo, typically comprises 60% of the total text.

The author is currently engaged in the process of editing the Kanetsugo database, which has been developed based on the data from the “Kanji-Goi-Shu (Kanji vocabulary) Vietnamese version (1984),” which was published by the Himeji Teiju-Sokushin Centre (Himeji Settlement Promotion Centre) for the refugees from the Indochina peninsula.

Based on findings of previous research, this paper summarizes the editorial process of selecting words that are to be included in the database. For example, the process involves comparative study of words that can be inferred by their pronunciation, or words that consist of the same pair of Chinese characters in the same order sharing similar meanings, or not sharing the same meaning, with those of two-letter Kango in Japanese (Sino-Japanese words).